

NEWS LETTER

株式会社人財アジア 定期ニュースレター

vol.37

2025年01月

岡村の最近の注目ニュース ビジネス予備校近況リポート B-EAT会活動報告 What's up?

2025/01

いつ始めても
遅すぎることはない。

「リズムを刻みながら歩む」

2025年が始まって一か月経つ。

毎年一月は長いう人もいれば、瞬く間にすぎると言う人もいる。

時間の長短に差はないから、過ごし方の違いで感じ方が異なるのだろう。



みなさんはこの一か月をどう振り返るか？

まだ新年が始まったばかりじゃないかと思ったら、大串先生の“すべてのスピーチは一コマ15秒間の積み重ねである。その15秒間一コマを大切にできるひとだけが、1時間の話を素晴らしい”という激励を思い出して欲しい。人生も同じ、ひと月一月を大切に使いたいものだ。

・世界目線

みなさんはEATにて、我々の日々の生活は世界のすべての事象と紐付いていることを学んだ。米国における就任後の矢継ぎ早の大統領令を、あなたは今、いかなる切り口で見ているか？私は“結果さえ出せれば手段を問わず”が蔓延する怖さを感じている。あなたらしい切り口で森羅万象から学び続けて欲しい。

好きな国を一つ選んで追ってみるだけでも比較感が生まれ複眼的思考が手に入る。先日「フィンランド人はなぜ4時に仕事が終るのか？」の本を斜め読みした。内容は大方想像ついたが、小学校時代の文集に将来行きたい国として書いて以来どうも同国のことには気になってしまふ。大企業にはサウナがついていて裸の付き合いを大事にしているくだりはあらためて面白い。あなたの好きな国はどこか？いかなる文化・風習を持っているのだろう。SNSで日本人会（永住組）の方とつながって現地の様子など伺ったらどうか？

・株式投資は自分への投資

2008年以来擦り続けてきた紙幣が着火剤となってインフレに火が付き、世界の政治・経済・社会を揺るがしている。にも関わらず、バブルを懸念する声が減じているのが気にかかる。私は運用者の立場を離れて久しいので、毎年この時期に世界の株式チャート（1年間+10年間）を眺めながら世界観を点検するのをせめてものルーチンにしている。

あなたも既にそんな習慣を身につけているはずだ。さああなたが選ぶ今年の株式3銘柄は何か。ぜひ仕事に直結しない、でも伸びそうな企業も選んでみよう。関心が広がれば、自ずと目線が高まり、周り回って仕事力があがることだろう。昨年はおおがかりな異業種交流会を2日間に分けて実施したが（今年もやるので希望者は連絡ください）、キー・スピーカーを務めてくださったEAT卒業生の“若手時代に無関係と思って取組んだ雑務が後になって役に立つ”話に大きく頷いた。

・期初の誓いの意義

みなさんは本日生まれて何日目か？私は23、274日だ。もし、暦の概念がなかったら、人生は平たんで退屈だろうなあと思う。年始、月始、週始に自ら発破をかけて我々は生きているのではないか。リズムを刻みながら歩んでいる。

昨今は新年の誓いを立てる人が少なくなった。節目で“一個人としての目標”を立ててみるのも良いのではないか。私はAIについての知見を高めることで、人間学をさらに深めたいと思う。年の途中で何度も振り返る時に、その進捗が外せない視点になる。みなさんの期初の誓いは何か？

本日寄稿くださった柳基善氏は、今や仕事を超えた親友だ。グローバル企業で為替ディーラーとして活躍、富裕層向けメイド派遣会社を創業売却の後、ライフワークとして“良質な旅のデザイン”を通じて心の豊かさを応援する姿勢に彼の品格や思いを感じる。

旅を単純化して二種類に分類してみたい。

一つは「なぞる」旅だ。例えばロンドンに行き、英語の教科書に出ていた写真と同じビッグベンを見てホッとする、外国人旅行者が富士山を背景にインスタで見た風景の写真を撮る、などがそうした旅だ。旅の体験は本物をなぞり撮影する時がピークとなる。

もう一つは「ひかれる」旅だ。少ない情報で、旅先を気の向くままに行動し、自然や建物、アートやクラフトなどに魅かれる旅だ。五感を解放し、心がワクワクする方向に身を任す。空間や人を通して体験は徐々に深みを増す。

東京から福岡に居を移して4年になる。これまで九州各地を回り、小さな旅を重ねてきた。私の旅の仕方は「ひかれる」方だ。その様子を少し再現したい。

はじめに経年変化の美しさに目が向いた。神社の樹齢千年を超える樟の木肌をまじまじと眺めた。何百年もの歴史ある窯元を訪れ、その工房の得も言われぬオーラに釘付けになった。風雪に耐え、濃密な人の往来を想起させる経年変化の味わいは、新しい素材や意匠では作り出せない価値あるものと感じた。

また、旅先では、土地の語り部の人柄や話が面白く、つい引き込まれた。千年以上も続く家柄の宮司から伺う地元の物語はなかなか書物からでは味わえない実りあるものだった。歴史に興味が湧き、古代へのロマンが広がり、一気に時代をタイムスリップしたような感覚に陥るから不思議だった。それは、その土地が私の故郷の地であることに由来しているかもしれない。

そして、陶磁器や染物などの工芸品の中に、日本の伝統文化の美しさを見出し、心が動かされた。それぞれの作品の魅力から自分の美意識が掘り起こされ、もっと作品の背景や技法を知りたいという欲求が生まれることになった。

さて、旅に出て、知識をなぞり、おさらいをして満足する旅と、旅先で、ひかれるものに導かれ、新たな自分との出会いが起こる旅と、あなたはどちらが好きだろうか。自分は両方の旅が好きだという人もいるかもしれない。

最近では、オンライン旅行で十分だという考え方もあるようだ。しかし、直接体験はバーチャルの体験を優に超える豊かさを持っていると思う。



旅の体験を経て、歴史や文化に関心を持ち調べることで、旅の余韻は深まりもする。そして、もう一度、訪れてみたいという引きをその旅先から感じことになる。もし、その土地に自分の先祖との繋がりがあればもっと興味が増すかもしれない。さらに、手仕事の土産品が自分の家に馴染み、そうした伝統文化を守る地域の人々への敬意が生まれてくるだろう。

旅は自分では気づくことのなかった美意識や命の繋がりを発見する体験である。それは言わば自分のDNAに導かれる旅だ。自分がひかれる方向に足が向き、人や物との出会いがあり、心身に力が漲るようになる。日頃多忙なみなさんが、たまには旅に出かけ、心豊かな人生を送るヒントをつかんではいかがだろうか。



What's up? —



吉武 嵩人
Takato Yoshitake
EAT ビジネス予備校
東京クラス (6期生)
日本生命保険相互会社

EATを卒業後、NEXT3で3年（編入までさせていただき！）と、計4年間、岡村先生にお世話になりました。今年度は、4年ぶりにEATを離れ、改めて岡村先生とEATの皆さんとの存在の大きさを感じています。仕事では、新しい部門に挑戦中です。プライベートでは第一子が誕生し、公私ともに忙しい日々を送っております。EATでの学びは、常に私の指針になっています。また皆さんとお会いできる日を楽しみにしています！